WASON
HQ
1104
J74+

July 14
1888
no. 118

廿一年七月(版權所有)十四日發兌

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢
府內無稅
郵稅一錢
毎土曜出版

第百拾八號

社說
男女交際の危險

論說
婦人の社交上に於ける勢力(德富猪一郎)○家內經濟の大要(木村熊二)

批評
明治唱歌(美妙齋)○中江篤介君婦人改良論○米婦人洋裝論

叢話
食物と運動(加藤弘之)○洋裝を爲さんとする日本貴婦人に告ぐ○服地色の取合せ(美妙齋)○演藝矯風會發會(石橋忍月)

小說
さすがに雙紙(美妙齋)○小說神髓

佳傳
メレーライヲン女史

新報
試驗後の女生徒○演藝矯風會へ注意其他

外報
世界婦人禁酒會會頭外一件

小供談

專賣二〇三一一五　詳和堂中川昇刻

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 118. July 14th, 1888.

EDITORIAL:— On Social Intercourse: No. VI., The Dangers of Social Intercourse.

LEADING ARTICLES:— Influence of Women in Society (III)., by Mr. I. Tokutomi; Principles of Houshold Economy: No. VI., by Rev. K. Kimura.

CRITICAL NOTES:— "Meiji Shoka-Shu" (New Collection of Songs); Mr. T. Nakae's Treatise of Woman's Reform.

MISCELLANIES:— Food and Exercice, by Senator H. Kato; "To Japanese Women who are Adopting Foreign Dress, by H. Frances Parmelee" Translated, and "Yokohama Daily Mail"; Of Colors; The Reform Society of the Artists.

NOVELS:— "Sasugani" (III).; Bouquet of Novels.

BIOGRAPHIES:— Mary Lyon (Concluded).

CHILDREN'S COLUMN.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

一册枚數七十葉定價二十錢全國無郵税

昨十三日出版せり

通信女學第十一巻發兌

蓋し最良の敎科書

婦人會員の會讀及戸内の獨學に用るに宜

女學雜誌社

●珊瑚の珠 （七十二回）

○早婚嘆　大沼沈山

三十男有室。聖經明文存。何乃貪色者。斯言如不聞。
乳臭猶未除。媒妁既議婚。未知爲父道。兒女羅膝前。
况又僥季俗。婦裝競鮮新。自非綾與羅。不肯纏其身。
翟氏甘薪樊。孟光希布裙。悠々千載下。寂々絕後塵。
噫誰之過歟。招頭問高旻。

○寒夜侍外君　梁川紅蘭

四隣人既定。燈火夜闌殘。雪逆月光白。雲隨風勢團。
家貧爲客久。歳晏怯衣單。鼓半起烹粥。思君吟坐寒。

○春興　同人

太平風俗競豪奢。不問桑麻只問花。我國亦栽桃杏在。暫拋針線弄春霞。

婚娶而論財。夷虜之道也。君子不入其鄕。古者男女之族。各擇從焉不以財爲禮。（文中子）

男二十而冠。三十而有室。女十五而笄。二十而嫁。有故二十三而嫁。（禮記内則篇）

○妻緣餘りに早く御座候血氣不定草木の二葉の内に精氣發泄を過し候てハ長生の根基弱り生涯病ものと相成家業負荷無心元奉存候其上夭死等の事も難計御座候。（賴山陽手簡）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第百拾八號
明治二十一年七月十四日發兌

社説

○男女交際論（第六）

其危險、（上）。

吾人は、斯までに深く男女交際の効益を認め、斯く迄に強く其効益を論じ、又斯までに厚く其論を信ずるものなり。蓋し何人と雖ども、もし以上四篇に分説したる卑見の程を高覧ありたらんものは、最早や吾人を呼んで男女交際に故障を申すものなりとは認められじ、否な敢て左樣に認めらるゝなきのみにあらず、必らずや吾人を見て男女交際に於ける無二の忠臣なりと許さるべし、而して吾人は實に自ら其忠臣たることを許るし、凡そ日本國内ょ其の實行せらるゝことに對しては、敢て人に後るゝを甘んぜず、常に鋭意熱心に之を贊成し之に盡力せんことを期する所ろのもの也。」然るに、吾人は男女交際の効益を尤も厚く信ずるが故に、亦た之に恐るべきの危險あることを尤も深く認むる所ろのもの也、之が正當に健全に實行せられんことを尤も強く望むが故に、亦た之に無かる可らざるの用心あることを尤も切に覺悟する所ろのもの也。吾人既でに男女交際の爲に忠臣たらんことを期す、安んぞ之が爲めに忠言を憚かる所ろあらん哉。

そも〳〵男女交際ょ効益の尤も多き所ろは、即ち亦たその危險の尤とも多く伏る所ろなり。吾人嘗て草木の花を見るに、其花の紅き白き、其香ひの馥郁たる、其色の爛熳たる一に皆な雌雄の兩蘂をして成るべく容易に接近せしめ、成るべく有益に交合せしめ、以て可成く完全に其の種子を造らしめんとするの目的に出でざるなきを見たり。人類男女の構造を見るに、其の心身器關の造り樣、亦た半ばは此の如きの目的に出たるを知る、即はち其の眄たる美目倩たる巧笑と、剛にして優、武にして文なる丈夫の美德とは、實に是れ男女をして一瞥片視の間既でに言ふ可らざるの引力を生ぜしむる所の者たり、特に其肉躰の組立に至つては、愛戀の情一たび動くや、彈機乍まち發し、冬天急に春を回し、砂漠頓に花を生ずるの狀なきにあらず、即はち是れ、草木の花に於て存するの用意、亦た同じく人類の男女間に於て存するものたるを知る。」之を以て男女交際の効益は、或る限りに至る迄で男女を接近せしむるが爲にして、而して其危險は、此の限りを立越えて彼等を接近せしむるが爲に原づく、故に其尤も効益ある所ろは、即

ち其の尤も危險ある所なり。見よ、男女の交際は自然に順ふものなり、之を行はしむるは水を下きに流すが如く、之を禁ずるは水の流を堰くが如し、然れども其の相ひ交るの自然なるが如く、此交を立越ゆるの傾向も亦た同じく自然なり、蓋し低きに就くを以て水の性なりとせば、流路もし穴隙あらば乍ちに之に潜入せんとするも亦た水の天性ならん、男女が相ひ交際し、相ひ交際して親密となり、親密にして遂に其の獎動の趣く所ろに流れ行かんとするは、亦た同じく人性の自然なるもの也、此に於てか其効益は既でに危險の門に入たり。又た見よ、男女の交際は情交を盛んにするものなり、情交いよ／＼盛んなれば肉交のいよ／＼滅せんとする、是至當の順序ならん、然れども物は必しも常に至當の順序を履に止まらず、亦併せて其の極度に走るものなり、蓋し情感電通し、意氣合躰し、同情愛思の念すでに油然として起るの時は、既に是れ一轉將さに大危險の谷に陷入れんとする惡魔の手の觸るゝの時たり、只だ夫れ道德堅固、禮儀嚴重の間柄に於てのみ能く此の惡魔の誘ひを退くるを得べしと雖ども、然れども天下の男女皆な道德堅固なるに非ず、天下の男女皆な禮儀嚴重なるに非ざるが故に、故に吾人は遺憾乍ら此處に大危險の徵候ありと宣言するとを猶豫せざるものなり、此に於てか其の効益は既に危險の門に入りたり。又見よ、男女の交際は、男女をして彌いよ其美質を養成せしめ、又いよ／＼其美質を相ひ承知せしむるの德あるものあり、然れども其の美質のいよ／＼養成せられ、其美質のいよ／＼承知せらるゝものは、即はち彼等をして益す相ひ戀思せしむるの基ひにして、其の益す相ひ戀思するは、即ち其の又益す密切に相ひ近づく所ろの案內たり、而して此に其の危險の卵を包藏するは既に上述する所ろに異ならざるを知る、故に此の効益の尤とも多き所ろは、即はち其の危險の尤も廣ろく開かるゝ所ろと覺悟せざるべからず」吾人は男女交際の効益を十分に承知するものなり、故に其の危險の恐るべきことを亦た尤も十分に承知せざるを得ず。

男女交際は、天の使にして亦惡魔なり、其の一つの手には經典を有す、更に一つの手には劒を提ぐるが如し、而して彼れ揚言して云く、汝ち此れを取らずんば彼れを取れよ、天に上らずんば地に墮落せよと、眞に恐ろしき怪物にはあらずや。只だ夫れ西洋文明國の多くに於ては、一に、宗教あるものあり、能く人心を制す。二に、輿論の勢力あるものあり、能く

人心を壓ゆ。三に、男女相敬するの風あり、能く其相侵すを止む。四に、習慣なるものなり、能く男女をして其の男女交際なるものに慣れしめたり。五に、嚴重の禮式あり、能く之を以て亂離不屈の我儘を禁ず。以上五箇の美は必ずしも西洋諸國に行渡つて存するとは云はず、亦其國の男女は皆な多く之に制治せらるゝとは云はず、吾人は夢にも如此き大胆なる定めを申すものにあらざる勿論なりと雖ども、然れども、其の大勢を察し、其の大躰を觀ずるの上に於ては、西洋諸國の男女は、既に此等の制治に沐浴するの地位に達し得たりと云はざるを得ず、蓋し此等五箇の巡査終始男女交際の塲裏を巡行して其の取締を爲すが故に、幸ひして其の境內餘まりに夥ただしき不都合を生ぜず、危險の卵未だ温められずして、既に効益を呈するに了るの喜びありと云ふ可き哉、而して彼地の學者は、今に尚ほ自由なる男女交際の當否何如を論爭し、現に兩派の黨を立てゝ未だ決せざるの論陣を布くを見る。然るに我國の急激家は、國に未だ彼の五つの美を存せざるにも係らず、彼の五箇の巡査の巡行なきにも係らず、西洋に於て尚ほ現に男女交際論の未決なるあるにも係らず、既に尤も急激に其交際を主張し、尤も急激に其方便を實行し、且つ尤も急激に其効益を認め、而して尤も無頓着に其の危險を看過す、之れ抑も何たる事ぞ。吾人は男女交際の効益を知り、又其の危險を知る、然れども我日本國當今の男女に於て之を見るに、殘念にも、玆には殊更に其効益を減ずるものあつて、而して特更に其の危險を增加せしむるものあるを信ず、吾人豈に敢て之を言ふに憚る可けんや。

論説

○婦人の社交上に於ける勢力（其三）

德富猪一郎　演説　　佃與二郎筆記

一躰婦人と云ふものは、交際がお上手であるのです。若男を交際の「アニマル」と云へば、婦人は「エンジエル」である、社會的の天の使である、其御婦人方が交際の御上手と云ふとは、單り西洋各國で認めて居るのでは無い、此御婦人をイジメたる所の日本國でも、シツカリ認めて居るのです。其證據には昔し戰國の時に當て、極く詢に話し惡くき樣なことを、お話しする御使には男か女かと云へば、多くは御婦人であります。假令ば德川家康と豐臣秀賴との間の掛合に、其時の使者と爲つたは御婦人でありませう、成程向ふの人が淀君と云ふ

男まさりの婦人であつたからでもありませうが、兎に角御婦人が「デプロマシー」外交政略に立ちしとは、明かなるヿであります。

又一躰の生活上でも、交際を主とする所の業に、婦人の出て居らぬものは無い、可笑い話だが、例へば錢湯、湯屋、温泉場、下宿、旅店、モウ少し云へば、矯風會の主意にそむくから言わぬが、兎に角人を騙すか騙さぬかは知らぬが、人を相手にする商賣は、多くは御婦人方が遣つて居て、其御亭主樣は、マルデ三介とか何助とか云ふ位地に立つて居るのです。私甞て伊呂波文庫を讀んだヿがあるが、其時覺へて居る、何とか云ふ藪醫者があつて、ソレニ借金取りが來た、其時に藪醫先生隱れて留守をつかゐ、妻君をして其方面に當て、兎に角甘く歸らしめた、其後藪醫先生妻君を拜して曰く、カヽア大明神樣と。此樣に總て交際上のヿには、小說にもある通り上手であるから、日本では婦人を出してあつたのです。併しながら只最も賤しむへき、最も卑屈なる、尤も不潔なる所の商賣とか、何んとか云ふ所の、交際的の御婦人方に計り御依賴申して、而して又雲の上の立派なる社會、其社會の社交上の取りなしなどを御依賴し來らざりしは、實に二千年の昔しからを繰返して見ても、呉々も私は殘念至極であるのです。

私甞て「ビーコンスフヒルド」と云ふ、御承知の通り猶太人で一書生から遂に大宰相となられ、七年前に死なれた人であるが、其「ビーコンスフヒルド」と云ふ人の小說を讀んだヿがある。其書に書いてあるヿに、「我はエラクならなければならぬと云ふは、男の志である、然し男をエラクするのは、婦人の「シンパセー」同感の情である」と、又言ふたヿがある、「世の中のヿは總て志によつて定まると、一方の人は曰く、否、世の中のヿは婦人によつて定まる」と。斯う云ふヿを覺へて居りましたが、かゝる事を御聞き遊ばせば、矯風會員の樣な開化された御方でも、或は餘りヒドイ言葉では無いかと、御考へになるかも知れない、併し私に於ては、決して是れがヒドク無いと思ふ、實際であると思ひます。乃ち此の「ビーコンスフヒルド」と云ふ人は、自分の實際のヿを書て置いたに相違ないと思ふ、其證據には、「ビーコンスフヒルド」の妻君は、氏よりも多分二十位御老年であつたと思ひます。日本では十七八で御子樣が出きるから、恰好親子の關係の樣なものである、兎に角御夫人は二十位御老年であつたのです。ソンナ年とつたお神さんを、何を物好きで娶たかと云へば、別に

物好きで娶たのではない、實にエライ人であるからです。其證據には、毎でもビーコンスフヒルドが國會に出て演說する時、未だ曾て一度でも妻君の御列席なさらないとは無い。固より「サイド、バイ、ザイド」左りは氏で右は夫人と云ふ樣に、ヒツタリ御列席でハない、遠く傍聽席で見て居らるゝのです。「ビーコンスフヒルド」が演說する時は、妻君の姿がチラリと見へれば、エライ「エロクエント」雄辯となると云ふのです。或時「ビーコンスフヒルド」が、考へ詰めて、妻君と一所に馬車に乘ッて行きし時に、妻君は指を馬車の窓に御挾みなすッた、ソレが英吉利馬車の窓は、總て窓と戸の間は斯う云ふ工合になつて居るから、幾んど指は摧くるばかりであつた、妻君は平氣ですまして居る、痛いとも何とも云はない、遂に國會まで忍へて行かれた。何故かと云へば、別に外の譯では無い、ドウモ痛う御座いますからとか何とか云へば、折角「ビーコンスフヒルド」が考て置た演說と云ふものは、マルデ無になつて仕舞うから、夫の腦膸を錯亂せしめざる爲めに、痛を忍んで一所に往かれたものである。一躰ソンナ譯で、婦人の力と云ふものは、是れを夫婦の間に於きましても、是れを姉妹の間に於きましても、是れを朋友の間に於きましても、實にエライものである、又エラかつたのである。デ今日に於て其御婦人が、外交上にお務めなさるとの大なる、宗教上にお務めなさるとの大なる、又一躰の世事上にお務めなさるとの大なる、其他慈善と云ひ、若しくは種々の改良のとと云ひ、泰西婦人の爲さるゝとと云ふものは、實に枚擧するに遑まあらない。シテ見れば、其婦人が上座に御座りになるも、若しも少し高い所があらば、二階にでも上げたいと、泰西男兒は思ふであらうと考へるのである。

然るに(又日本の方に歸て來ませう)日本に於ても、段々西洋の風をお好みなる御方々がありまして、兎に角日本でも男女交際と云ものを、始めなければならぬとのお考へがあつたのです。實に是れは御尤も千萬の事で、若し交際と云ふ本當の意味で云はゞ、日本には男女の交際と云ふものは無かつたのです。强て御婦人方の側に近寄ると云ふ樣なとは、正月の歌加留多でもする時ばかりである。併し不幸にして日本では、正月だけの慰みになつて居るから、男が正月の外は婦人方の側に寄るとは出きん、言ふて見れば、玆は男の世界、爰は女の世界、斯う兩方になつて居るのみならず、隨分睨み合て居たのである。ソレデ此西洋流をお好きになる御方々も、隨分

此弊風を矯め樣と云ふ御熱心ハあつたのであります。是れが爲めに御近邊であるが鹿鳴舘も建つたのであります、是れが爲めに「ボール」も始まッたのであります、是が爲めに「フハンシーボール」抔も始まつたのか知れない。「フハンシーボール」抔と云ふて、男ハ曾我五郎となり、婦人は村雨松風となり、一所に舞蹈るから、屹度男女交際の結果からして、實に花の如く美くしきものが出きて來るだらうと、思つて居た人もありませう。併し其結果はドンナ物かと云はゞ、隨分亦可笑いものである、私ハ敢て其結果のことに就て彼れ是れ云はない、けれども兎に角、一所に夜會に出て一所に踴つた、踴つたなれば踴つたゞけで歸れば何も無い、一所に卓を同うして珍味を食う、食つたゞけで歸ればソレダケのことであるが、若しも大膽不敵の男子があつて、少しお話しでも申上げかゝつて見る、然しながら何と御返辭遊ばすか、ドウモ遠き所の男子などの耳には、聞えぬ程の御返辭であります。精々ソレヲ拜聽した時は何んな利益があるか、(斯う申せば痛く御婦人方を、攻擊するとのみ申上げる樣だか、爰にお出での御婦人方でハ無いのです、)精々天氣の御挨拶か、人の噂、ソレより先きは何が御機嫌に適ふか、何が御意に適ふか、何んなことをお噺しするが宜しいか、中るも八卦中らぬも八卦かは知れぬが、或事をお噺ししても、應ぜざることハ恰も石地藏の如くである、石地藏と云ふが御聞苦るしいなれば、大理石で造つたる立派の像の如くです、是れだけハ損害要償の訴も出きず、名譽毀損と云ふことも出きない、實際さう云ふことである。私もシッカりは知りませんが、ソンナ譯であるもので御座いますから、折角御交際が始まり、折角橋はかゝつたけれどもが、橋はコゝ迄來ても二ッの世界が合ふとは出きない。心持では少し近寄つたが、交際はまだ始まらないと云ふても宜しい、是ればかりは不思議です。尤も基督教の社會に、お育ち遊ばす貴女諸君は、決してソンナ事はありません、此の仲間のことハ申しませんが、只ナミ〳〵の「レヂー」の方は餘程御困り遊ばすことと思ひます。折角園遊會などにお出でになつても、御自身連ハ一禮になつて、ズット御飾りになつて居るから、眞にエライ樣でハあるが、其上には別に何にも無いと云ふ樣なことです、誠に殘念の至りであります。(未完)

○家内經濟の大要(其六)　木村熊二

珊瑚の蟲ハ小にして見へからずといへとも集合せば一島嶼を爲し一簣の勞力も之を重ねて山岳を爲すといへり少しの注意

れ他日大なる結果を生ずるものなりスマイルス氏云財貨を得るのみにては未だ其の人の財貨を定むるに足らず必ずや之を節用し之を整理する所以の方法を得て然る後に財産其人に屬する也」と節用整理の方法其宜を得んが爲めに意を家内經濟に注ぐもの浪費と消費の區別を判然と辨へざるべからず浪費とは財を無益に費し或は不注意より生ずる所の費をいふなり假令ばランプのホヤは其價五六錢なれば之を贖ふと最易し故に之を麁末に取扱ひて破棄するも顧みず古渡の支那は價貴ければ之を破壊せし時は家内の人々手を搖動し顔色を變て心配し番町皿屋敷の夢を見たるに彷彿たりホヤに費す所の金錢は何處より來るやといへば矢張主人が日々勤勞して得たる所のものなり今や其の得たる所のものをランプ屋へ與へてホヤと交換せば商人は幾許の利益を占るも主人はホヤと其の價とを失ふものなれば支那の珍器もランプのホヤも同じ注意を以て取扱ふべきものなり又婢僕などの主人の物を濫用して顧ず食物を人に與へ不用の什器とて架上に置きたるを取出し自ら用ゆるは主人に利なくして多少の損害を與るものなり又人に書翰を贈らんに端書にても辨ずべきに卷紙數尺を太き水筆にて染め郵便切手二枚をはりて投函するとありむかし賴春水は他人より贈りこしたる書翰の餘白を續ぎおきて投書を要する時は必ず先づ誤字などにて無益の紙を費さぬため草稿を其に書き付たりといへり佐久間象山は白牋の長さを定め置きて如何なる用事にても其中に認むるを常とせり春水象山は文章も運筆も人より秀でて最愛けれは如何程長き手簡にても人の愛翫して措ざる所なれど江家の夢筆は五綵を吐くとの氣どりにて秦か漢か將た近代の文か分の判然ぬ所に味のありとて唐様に似て否なる筆力を揮ひ數尺の土佐紙を染めて人に贈るも枕紙とはむかしの事今は烟管のらを掃除とはなりにける又交際費と稱して伴侶を集めて健啖鯨飲し千金を擲つは都て是れ膽なり家に四壁なきも貧を知らずと誇りつるは實に狂人に均しき所爲といふべきなり。

消費とは財産を繁殖せしむべき爲めに費す所の金錢なり教員となり醫師となり代言人著述者と爲らんには必ず許多の資本を消費せざるべからず一粒の麥を播きて數千粒の麥を得十金を費して五十金を得るが如く費す所ありて始めて收穫を得るの類をいふなり教員代言人とならんには五車の富に至らずとも常用の書類は必ず之を購求せざる可からず疝癪にも頭痛よも桂枝と人參を携へて罷出たる毒取養父井は單に藥匕一本の

加減を以て如何なる難症にも療治を施すべしといへとも獨逸も驚愕に足らず、技術も藥匕と共に磨き立たる明治の醫師は丁幾々々も匕勺の種餡餅にあらぬアンモニヤ架上に列へ置き種々樣々の機械を所持せねは第一躰裁があしき樣なり左れは書籍といひ藥品機械といひみな勞力を助くるものなれは爲めに費す所の金錢は浪費と自ら別あるべし緣日の街頭を散歩せし時盆栽の薔薇は紅の唇より馥郁たる淸香を吐くを見て細君は之を良人ゑ呈したく貰ひ求めて家に歸り直に書齋の机上に置けり良人は外より來りて其室に入るゑ薔薇は臉邊散紅て歡迎と言ぬ計りの風情あれは無情の花より解語の花の心つくしをうたかたの泡にせましと立よりて一輪しつかに手折つつこれかさしたまひねと胸中に溢るゝ愛情を醱らしめたりこの盆栽は夫婦の中に無限の歡心を養ふものなれは徒らゑ金錢を費したる翫弄物と見做へきかは家內經濟の必用とする所は浪費を省減し消費と入金と相償ふ事を主務とすへきあり金錢を費して富を致すの法を知らす之を守りて費すの術を講せされは人世福祉の根源なる財を無用物となすものあり古今有名なる財産家が其子孫の代に至りて守錢奴となりて人に鄙まれ又奢侈生活の分限を越て財を散すると土の如く終に家屋倉庫も擧て他人の有となり勞力を作さんか舊時の地位を顧て之を恥ぢ左り迚資本とすへき金錢も學問もなく賣家と他人の門に見し札もけふは自己の札となりぬる恰も士斑人か勞力を恥ぢて乞丐を恥ざる情況に趣くも經濟に意を注ぐと注さるとに存するのみ故に浪費と消費の意味を克く辨へて余か前に述へし如く入金と消費の比較を立て出入調和の途を明にすると甚肝要の事と思れたり。

今や粧作貴婦人の流行する社會なれは一家日々の入費を帳簿に記して家賃衣食費雜費幾何と明記するとは甚面倒の樣に思ひて月々の入費も明確ならさると多く中には細君たるもの簿記法と算術に不案內にて無勘定を恥とせす却て其を以て貴婦人振りたる人あるは甚歎すへきとあり米國にて諸會社の簿記は婦人をして之を司どらしむ又算術に長じて學校の教員と爲る婦人は常に多し婦人にして簿記算術を知らずんはいづくんそ人の妻となりて家事を管領するを得んや細君簿記と算術に熟せずんは節用整理に長する能す節用整理ゑ長せすんは財産を增殖し良人をして社會最高の地位に立しめ兒女をして斯世に顯達し社會へ出頭せしむる能す空く窮乏と負債の軛の下に苦められ終身役々として自主快樂の鄉に入を得す可憐生涯を

送らんのみ余嘗てスマイルス氏のスリフトを讀み大に感ずる所ありジョン、ステブンソンといふ人あり始は石炭坑の工人たりしか中年にして機械を發明し名望を世に傳せりこの人學問を好み少しの餘羸を貯へ得る時は智識を開發せん爲めに之を費せり一週間に工錢十二シルリングを得る時にいたりこれを以て父母を養ひ自己が學問の資に供へおき技術次第に上達するに隨ひ一週間に工錢一ポンドを得たりしかば我は今日富人と爲たりとて等輩に語れり家內の主管たる婦人は金錢の出入を注意し數錢の餘羸を得る時數錢の財產を得たりと思ひ 如斯小を積んで大を爲さんと常に心掛べきものなり（未完）。

批評

○近時の女學論

（一）。中江篤助君の「婦人改良の一策」去る六日發兌の國民之友第二十五號に出づ。其大意に云く、

此半分の價値が上がるならば三千餘萬の總高の價値か上ると故吾等も矢張りどふかうして其價値を上け度いと思ふて苦心し居るとあり一計を案出したり此外に名策なしとまで信するなり女人をして成丈け早く成丈け多く極々の生意氣と成らしむること是れなり夫れ此生意氣と云ふことは吾輩が云ふ所の生意氣にはあらざるなり世上多數の男子が云ふ所の生意氣なり即ち男子どしの噺し最中に女人が橫から飛び込むことなり經濟も噺し法律も噺し文藝も噺し何にてもあれ男子の議場に女人が進入して議案を提出し討議してはにかまぬことなり世上多數の男子が此くの如き女人を生意氣ありと論決するが故に女人の中幽閑貞靜の資本を持し居るものは沮喪し羞恥し卑屈と知りながら差し扣へ敢て進み入らざるなり夫れにては民友記者なり吾等なり其他同旨義の男子が如何に奮發し世話したりとて早急に効を奏する譯には往き難きなり夫れ故吾等は此生意氣は眞生意氣にあらさることを辨明して世上の男子にサッパリと思ひ直さしめんと欲するなり女人の勇氣を增すは唯此一計に由ると思はる。

女人が學問して文藝政治の考か出來て漢語交りの噺か出來て男子の談話場にて時々二三の言句又は一兩段の文章を吐くことが出來て夫れが生意氣ならば吾等は女人が成丈け早く成丈け衆く生意氣にならんことを望むものなり。

要するに婦人は遠慮なく會話の仲間に入りサッサとお話しをすべしとの義也、吾人固より贊成す。蓋し生意氣とは只談をす

るとの生意氣なるよからず談す時の覺悟及び談しの仕方の如何んによつて評すべき者ならん、女性もし其事をさへ御存知ならば則はち中江先生の御傳授を丸呑にせられて可也。

(二)。米國上流の貴婦人より寄送せられたる日本女子洋裝の不可なる説及び之に對する横濱メール新聞記者の批評及び吾人の考ふるまゝは合せて本號の叢話欄内に掲げぬ。

○其二、明治唱歌（小本一冊五十一頁定價上製卅五錢並製十二錢 發兌所東京日本橋區通鹽町八番地中央堂）

美妙齋主人

無論この明治唱歌を適當の敎科用書と見る事は出來ません。少生が此處で評するのも、それ故、やはり前のとほり之を美術としこの一點に就いたばかりです。

「新年」大和田建樹氏　是は君が代と父母と友達とを祝ふ物ばかりで肝心の我身の事は何とも言つて無いのが難です。　それを見赦したとしても、「さいはひ多き」、「よろこびふかき」、「たのしみ長き」と三樣に書別けてある、その書別が別に是れぞといふ譯にも立つて居ません。　更にそれを見赦したとしても、新意匠の作で無いといふ事は十目の見る處です。

「春の歌」同上　野原の湖水と同樣、たゞ滑に見えるのみです。「波恬なれば奇觀が無い」と…なる程古人もうまくやります。

「春風」同上　第一首は纎細過ぎて所謂秋毫の尖にある塵埃を數へるやうです。　が、第二首は穩當です。　第三首の「老せぬ」は折角の御趣向ですが、力が弱うムります。

「學の力」同上　此歌を讀んで主人は大息しました、大和田氏がこのやうな千慮の一失を爲されたのに。　「學のちから智識のひかり」と事々しく出してある、その句殊に「ひかり」は更に活きて居ないではありませんか。

「勸學の歌」高崎正風氏　是も前の「春の歌」と同樣です。

「共に學びし」矢田部良吉氏　中々流麗な作です。　併し「いひし言葉はかた糸の」と言つたまゝ「かた糸の」何とか角とか「かた糸を」枕詞として句をはたらかせられなかつたのは隨分無學の淨瑠璃作者の筆法に似て居ます。　第四首故さらに「白菊」と限つたのは遁れ難い大難です。

「故郷の山」大和田氏　ほとんど隙間の無い絶調です。

「紀元節」下田歌子　意匠は好いです。　氣韻はしかし…

「日本男兒」大和田氏　「楯」、「城」、「垣」、そして第一首は「君が代」、第二首は「はらから」、および第三首は「先祖」、が主眼になつて居ます。　それならその主眼が毎首に貫通して居なければ不都合です。　ところが此歌には貫通して居ません。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「皇國の守」外山正一氏　取るに足らぬ醜作です。

「母なき吾屋」大和田氏　陳腐の趣向です。　たゞ「母なき吾屋」といふ歌だと思ふだけです。

「故郷の空」仝上　是も仝樣あたらしい趣向でもありませんが、語句のすわりが確固として居ます。

「別れの歌」加部厳夫氏　第一首は平凡ですが、第二首は可なりです。

「草刈の歌」大和田氏　實に錦心繡口の御作です。

「けふよる友」仝上　「つくすべし國の酒を」とは些亂暴過ぎて居ます。　軍歌には是が好うムいますか知らん。やはり前の「皇國の守」と仝樣活潑で無い調子の歌です。

「若竹若松」大和田けい子　なめらかです。

「朝雲雀」大和田氏　第一首は中々綺麗です。　が、四首が四首ながらまづ新機軸でもありません。　言はゞ繪具のコッテリとした工合寫本の土佐繪です。

「旅の暮」仝上　傑作です。　が、第三首の「月影ほそくけふるなり」とある、「けふる」の意味が活きて居ません。

「沖と磯」大和田氏　第一首、「いその山しろく……」は目に見るやうです。

「天長節」仝上　一寸妙です。

「クリスマスの歌」大和田氏　「天地に滿たる神の恩、やみにもかくれぬ神の恩」とあるばかり、何が何だかわかりません。　哲學上の考が、惜しいことには乏しいやうです。

いづれにしても大和田氏の御作はいつもながら敬服いたしますが、更に「あゝ」とか「いざや」とかいふ間投詞が中々御好きで、また主意のよく通徹した作が尠いのは遺憾です。　恐らくは想像があまり烈しくめぐり過ぎる士廣の類でゞもゐらつしやいましやう。　兎に角春秋二季にこの明治唱歌も集を逐ふて出版になるとの趣、刮目して主人もこの秋の出版にはいづれも絶作で無のは無のがあらはれるのを待望んで居ます。今のこの第一集ではまだ十分に感謝をば申しません。

叢話

○食物と運動の話　加藤弘之

左の一篇は去八日發兌婦人衞生會雜誌號外に掲載ありたるものなり今請ふて更らに茲に收む。

凡そ衞生に於て第一に大切なることと申すは食物と運動であらうと思ひます身躰を強くするには第一に食物が宜しくなけ

れバありません成る丈け身躰の養になるものを食べなければなりません即ち之を一言に申せば滋養分の少ないものを食べると腸や胃に無理なる骨を折らせた上に少も身躰の養をつけることが出來ません滋養分の多いものを食べれば腸胃の骨折がなくて其上に多くの養になるであります偖何が滋養物である何が滋養物でないと申すことハ衛生學や醫學をした人に問ハねばならぬことでありますなれども第一に牛や羊の肉其外の獸肉次てハ魚肉又野菜の内にも澤山あります。

併し獸肉や魚肉がいくら滋養物であるからと申ても隨分金の入ることである故誰にも彼にも始終獸肉魚肉を食べねばならんとハ申されませんそれ故野菜ものでもよろしい成るたけ滋養になる消化の宜しいものをお醫者樣に聞て食べる樣にありたきものと思ひます尤も外の遊び事や又ハ衣服の類に金をかけることハ成丈け儉約して出來るだけハ魚獸の肉を食べる樣にしたいものであります。

併し又食物と同樣に大切なるハ運動であります縱令如何樣に滋養物を用ひても運動がすくなくてハ何の益にも立たぬばかりでなく反て害になります運動をせぬくらゐならバ滋養物を食べぬ方が宜しい位のことであります滋養物を澤山に食べて運動を少なくするのが一番惡いことであると申すことであります然るに日本の婦人方ハ何分運動が足らぬ樣でありますから今日の樣なる有樣では迚も丈夫なる身躰にはなれません或外國人が日本で美人と申すハ皆病人である日本の美人ハ、大躰地獄から火を貰ひに來た幽靈の樣に靑白い者ばかりであると申ました實に殘念ながら尤もなる申方と思ひますこれが第一運動のたらぬ故であります何卒毎日三十分か一時間だけハ運動に時を費す樣に致したきものであります近來ハ人力車といふものが出來て至極用便にハなるなれども併しまた人の運動を妨げる大害ともなります丈夫なる婦人がたハ急用か又ハ遠道でなければ成丈人力車を用ひぬ樣になさるが宜しいと思ひます或醫者の話に食物よりも運動の方が猶大切であると申しました運動の方ハ食物の方より金が掛りませんのみならず人力車を用ふる所を歩行すれは却て儉約にもなる位のことでありますから運動ハ成丈なさる樣にありたいものと思ひます外國婦人などハ皇后を始め王族華族又ハ大金持の奧樣方も近處にまいるには大抵歩行が常であります決つして馬車抔に始終乗ることハないでありますから日本にても左樣にありたきことゝ思ひます。

○洋裝を爲さんとする日本の貴婦人に告ぐ（其二）

但し洋服に於ける最大の弊害は彼のコーセットを用ゆると云ふ實に愚らしき習慣にて候其の害に於ては固より婦人の足を小さくすると云ふ支那の惡風よりも更に恐るべき事に候、日本の方々は既に支那の彼の惡風を卑しまれんには何故他國に於て用ゆる更らに愚らしき更らに悪しき習慣をば同樣に卑しみ遊ばされざる乎、中にはコーセットを緩くすれば害なしなど申すものも之れ有り然し確たき鋼もしくは鯨骨をば身躰中の尤も軟らかなる尤も害され易き所に當て候上は害なうして何事の候いん實に言ふ迄もなき事に候、然し現に之を用ゆるの人は身躰内の總ての器械が不平を申し其健康は追々に悪しくなるとも悟らず殆んど無感覺にて之を用ひらるゝも之れ有り候が斯る人は其の自ら知らざる間だに復た取かへし樣のなき害毒を爲したる譯に候、盖し何如なる婦人にても凡そコーセットを用ゆるときは其のコーセットが之にては固た過ると思ひ附くものは實に稀れなるものに候、人若し洋裝を固くするの弊害を容易よ承知せんと欲せば着物を脱ぎたるときに腰の周尺を計り又息氣を呼きもしくは吸ひたるときの肺量を計り置き扨て通常の洋服を裝ほひて後ち更ためて同樣に計りて御覽あるべし、十中の九迄は胸及び下肋骨の呼吸力大いに減じたるとを發見せらるゝとならん、元來吾々の健康の何如んは肺の呼吸の自由不自由淺き深きに關するものゆへ此は實に尤も注意すべきとに候、右樣申上るの主旨日本の貴婦人方が洋服を採用せらるゝ前にハ篤と此邊の危難あるとを承知し先づ其の變化を中止して御自身の健康のみならず其の御子息御令孃の健康に迄でも關係を及ぼす所ろの事件に付き預じめ熟考せられんとを希はんとするの存意に候。

確かに信ず日本の貴婦人方は殊に愛國心に富ませらるゝと承はり候よ付ては其の本國固有の服裝中甚いだ美麗に甚はだ恰好よきものを見棄て又一國民の健康を危くし何又た國内の婦女子を敎育し立派にし宗敎に導く等の美擧を起し之が爲に費用を要せらるべき事柄の甚いだ多かるべき折柄空しく外國の服式の爲に金を消費なさるゝが如き御方々にあらず、希くは日本國の貴婦人諸氏が衣服を尤も能く身躰に適合せしむるには之を何如にすべき而して靈魂を發達せしむるには之を何如にすべきかとの問題に對し之を撿究するに付て外國の最良なる婦女子等と共に連合一致せられんとを希ひ候。

エッチ、フランセス、パルメリー　白

左の貴婦人諸氏は右文意を賛成して調印す

ルクレチア、ガーフヒールド 故大統領ガーフヒールド氏未亡人
フランセス、クリーブランド 現大統領クリーブランド氏夫人
ヘレン、スミス エルス中學校女校長
フランセス、ウイルラルド 米國婦人禁酒會々頭
マリー、アレン、エスト、 ユニラン、シグナル雜誌女主筆
ラーチエル、ボヱレー ペンシルバニヤ女子醫學校女書記
ラマバイ、マインル 印度婦人
マリー、エバンス レーキ、エリー、女學校々長
エリザヘス、ブランカード、モント、ホリヨーク女學校々長

アリスフリーマン孃はエルスレー大學校長の職を辭退するに先ち此狀を大ひに賛成し裏書を記して送られたり」

以上は即はちパルメリー女史を主とし其他當時合衆國に尤も著名ある十貴婦人の賛成を經て我日本國の姉妹惣躰殊にその洋服熱心の方々に對して送り越されたる全文の譯なり。其議論にして假令ひ實際に適せざる所ありとも吾人は尚ほ尤も喜んで之を謝すべき筈あるに況んや斯く迄に明白に洋裝の弊を列擧し斯迄信切に本邦姉妹に忠告し且つ斯迄で適當に日本女服改良の問題を解明せられたるに對しては吾人殆んど之を謝するの辭なきを覺ゆ、蓋し之を玆に譯載して全國の女流に示し且つ先づ當紙面に於て代つて諸貴婦人の好意を謝するは吾人女學雜誌記者の責任たり、而して本書の忠告を正當に受入れて以て極めて適切に日本女服の改良方を執行はんとは則はち日本全女流が彼の諸貴婦人に對する最良の謝辭たらんとを信ずる也。

因に云く、横濱メール新聞の記者は本書を評して凡そ日本女服の左樣に宜しきとを主張する洋婦人にして苟も日本國内に住居せらるゝ程の方々は啻に口に於て日本女服を賞むるのみならず若し夫程に宜しくば乞ふ先づ御自身より之を用ひらるべし彼の實行なきの論告は何の効能もなかるべしと云へり、而して記者が日本女服の改良案は袴を用ゆるにありとの次第を復た繰返して論述せり」。評に云く、本邦寄留の外國婦人方にして左樣にせらるれば實以て幸甚の事なり吾人謹んで之を謝せんとして今より待構ふべし、但し袴を用ゆるは迚も行はるべからず若し行はるれば此の袴は他日西洋の裳の如くに迄で發達せずんば決して大に用ひらるべからず之れ暴を以て暴に代ゆるの下地ならん。吾人は平民的の婦人洋服を用ひんと主張すると同時にペチーコート

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

的の下衣を用ゆるとを主張する多年一日の如し讀者若し女學雜誌第五十三第百十の兩號を參看せらるれば可也。

○衣服地色の取合はせ　美妙齋主人

「いくらか理學の考あるものは稍色の取合を知れども猶時としては不適當なる色合の衣服を着して不快の感を起さしむる事無きに非ず。殊に婦人などは衣服の色合によりて美醜に影響を及ぼすこと多ければよく／＼色合には注意すべし。

赤は勇壯らしく、活潑らしく、温煖らしく、青は全く之に反して温柔らしく、閑靜らしく、寒冷らしし、されば赤は憤怒、爭鬪、熱愛などを象るに最も適し、青は閑散、平寧、などを象るに適すといふべし。支那に青衿とて學者などの服に青を用ゐしは全く平寧を意味せしものにて、また日本往古の武士が多く緋威の具足など着けしは勇壯をあらはせしものなり。紫は何處となく高尙といふ感覺を起さしむる色合にて後世支那にて天子の衣服を紫にて、日本にて上位の制服を紫にし、更にまた禮事にて紫衣を宗びしも全く此故に外ならず。綠は素より人の目に愉快を與へる色合にて、一ッは若草或は新芽の極めて青き、その思想の推進に因ッて少壯、流暢などおのづから若々しき感覺を與ふるものとなれり其他黃は爽といふが如き色にて樺は爽にて而も落付きたるが如き色合なり。鼠、栗、朽葉、大赭、花田、柳葉等所謂間色中の間色といふ色合に至ッては伴なふ處の本色の工合によりてよく色々に變化したる感覺を起さしむるものなり。

黑の如きは悲哀の意味を含める色にて白は全く之に反對せる色合にて現に今日の議式には白を以て晴衣とし黑を以て喪服とせり。是は西洋より輸入せし事なれども、實際日本にて從來黑を以て晴衣とし、白を以て喪服とせしは素朴修靜といふ一點に考を集めて斷定したる一時の迷想にして、更に黑は暗を象り、白は明を象るといふ一點に考を運らさば思なかく／＼に半に過ぎん。

色合の人に與ふる感覺は殆ど此の如きものにて幾分か此等の點に抵觸したる配合を施すに於ては或は輕躁らしく見え或はおとなしく見え、或は若やぎて見え、或は年老いて見ゆ。青は既に閑散平寧の色なり、故にもッとも老人に適せり赤、綠、白などは既に活潑、少壯、快活らしく、故にもッとも若き人に適せり。然れども赤にも綠にもせよ、それらは言はゞ華美に過ぎたる色合なり。華美に過ぐるに於ては其勢また人の眼を射過ぎて却ッて煩擾なる感覺を與ふるは必然なり。この必

要あるがため、極めて晴ある處の外は純白の衣を用ゐることなく、極めて幼穉快活なる者、又は極めて活潑の形容を粧ふ者の外は純紅純綠を用ゐる事なし。白は殺して更紗とするか、或は之を殺すに足るべき閑靜の色合を與へてその力を勉めて滅し、紅は黒の如きものを交へて光を薄くし、又綠は仝様の邪魔を挿みてもつはら視感の愉快を謀る。されば貴婦人の方にしてもし此頃流行の裏柳葉の單衣を着くるに於てはそも〳〵如何なる他の配合を用ゆべきか。裏柳葉は中形なり。白地の力なほ殘れり。かゝれば假に羽織を着くるとするに勢その羽織は黒色のものならざるべからず。何となれば黒色にて始めてかの浮過ぎたる白の力を殺ぐ事を得ればなり。（未完）

○演藝矯風會發會

石橋忍月

演藝矯風會の發會には編者不得止事故あつて參り會へさず甚へだ殘念の處ろ社友忍月子より私信の末に左の批評を錄し送られたれば玆に掲く只だ其の當否は見ざる編者の知る所にあらずして專ぱら同觀者の批判を乞ふの外なし。

昨日の演藝矯風會には實は餘り心も推まず如何せんと躊躇猶在りの日の午前に鄕富猪一郎兄を訪問仕候處不計矯風會の話出で同行せよと云わるゝ儘遂に參る氣に相成り鹿鳴館に入るや、イヤハヤ其多人數の雜沓には驚入り候小生等もスシの如く押し込められ見物致し居り候得共何分蒸熱に堪へ兼ね小生は廊下の風當り宜き處に出で時々は「つんぼう」座敷とも云ふ可き處より伺き見申候小生其日は演藝を精査して其否を批判せんとする氣は頓と失せ果て只管苦痛を避け涼風を得んと心掛け居り候故(賓客の十中八九は皆小生と同感なりしならんと存候)御尊命を輕んずる譯には無之候得共何分滿足の御注進申上ぐると不叶候間宜敷御海容被下候。一箇の紳士、令夫人と十二三才とも覺ぼしき令孃を携ね見物致されしが其令孃は「寄席の方が餘ッ程面白いワ、阿母様歸りませうョ」紳士も令夫人も實は苦痛と無興とを忍び御覽なされしと見ね（尤も紳士は數々欠伸を催され候ゆへ忍んで御覽のとへ明かに相分り申候）「ソンなら貴郎さう致しませうか」と令夫人の賛成に紳士は願ッたり叶ッたり何かへ以ッて辭む可き面様に席を立出て一件二階を下られ候、嗚呼此無心なる少孃の「寄席の方が面白いワ」の一言は誠におぼこなりと雖も此寂々たる日本演藝矯風會の眞價を評定したるものと言ふ可し小生も實に彼の少孃と同感に御坐候故思わず知友と廊下にかて「寄席の方が‥‥」の話しを致し居り候處傍らより胸に造花を着けたる某友(即ち同會の周旋人)咄、君の眼何ぞ野卑なる、淑女貴顯方は斯の如き高尚優美なるものを愛せらるゝなり故に君が無味と思ふ所は即ち淑女貴顯の賞歡し玉ふ所なりと予は予の眼の果して野鄙なるや自分ながら不相分然れども彼の淑女の耳を見よ彼の貴顯の目を見よ一ッも演藝に注射熟聽するものへなし偏に其冗長に倦んで豫想と反するものゝ如し拍手の聲は只だ世辭の喝采にして扇子のパタ〳〵、つぶやき聲の喧々、靴音のゴト〳〵には遙に劣り居り候小生は淑女貴顯が果して賞歡して耳目を樂ましめられしや否やを知らず又氣格を高尚にして風化の一助と爲すや否やを知らず然れ共予輩不風流の田舍者には花もなく香もなく是が演藝矯風の矯風たる所なりと指示する點を見出不申候。

一番目　松竹梅は評す可きとなし只平岡藤子の胡弓は余程手に入ッた者のやうに見受候、又恨むらくは古童子の靈妙なる尺八も小生は琴三味線の音の爲めに十分に聞取り能はざりしとな。

二番目　桃林の義貞稻ヶ村崎はマヅイ〳〵若し予をして三日間伯知の門下に在らしめば猶餘程面白き且つ矯風會の主旨に適したる講談が出來やうと自惚ながら存居候只早く切り上げて直様後ト連とせしは大に宜ろし。

三番目　の都連中の猩々は予は評すると能はず然れども上席の紳士中には眠氣を催したる御方大分有之候。

四番目　小さんの將棊の殿様はいつも乍ら輕妙流暢（ソレも其害幾多の場數を經てゐる者）高尚にして無味に陷らすとは先づ此類ならんか淑女紳士方にも餘程御得悅の摸様に見受け申候然し小生等は已に聞厭き申居候故左程迄も無之候。

五番目　如燕の將棊の談言は無味、餘り野鄙を避けんとに偏して堅くるしきとのみを演ずる故折角の伎倆も見ね不申候大久保彦左衛門の逸事を演ずるとなればまだ外に澤山色氣あッて而かも野鄙ならず花あッて且つ實ある お話可有之と存候總躰講談にせよ落語にせよ威張たる男子と男子との集合よりも幾分か女性か或は愛の分子を其間に交ゆる方却て淑女紳士の嗜好に適するならんと存候。

六番目　綾瀨太夫、豐造、淺經腰越狀泉三郎舘の段は餘程骨折ッてかたられ候得共越路、團平、生駒、等を聞きたる後の耳には餘り感服不仕候且ッ其演題も斯様に脚色の淺きものより寧ろ朝顏日記宿屋の段とか又は安達原袖萩若しくは中將姬等の如く最も愛と哀との切にして變化波瀾多きものを演ずる方貴士女方のシンパチーを惹起せしむると深からんと存候。

七番目　圓遊の似而非剛力者の落語は寄席にてやらるゝより餘程見劣りたり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

八番目　燕尾の精忠義人錢は相應にやられたり然れとも其話す事柄は誠に淺薄にして寧ろ淑女紳士の一笑に附し去り玉ひて歸宅后迄も頭腦に留めらるゝ御方は之れなかる可しと相考候。

九番目　四季三葉艸花柳壽助翁の三番叟は實に感服仕候尤も八番目迄演し來りし者只口先き手先き計りにて既に退屈を覺ゑ居り候時故幾分か感情の反動と存候得共兎に角日增のパンをソップに浸してたべた位の好味は有之候。

九番目　小イさな可愛イ一對の娘子が税所篤子の新曲瑞穗の榮を舞ひたる由なれど小生は此時室外に散歩致居候故之れを見ず。

十番、十一番、菊五郎と團十郎の藝は予之を批評するを欲せず二優の巧妙は世間既に定評あり小生等か喋々之を賞賛するも野暮の至りと存候然れども水の江と言ひ插頭の菊と言ひ揃ひも揃ッてゾットせざる新曲と相考候物集先生にせよ高崎先生にせよ畢生の筆力を込めて作られたる者にハ非る可し只ホンの朝飯前に書流されたるものと相考候斯の如き趣向なき作を吾人が最も望を屬する日本演藝矯風會にしかも其發會式に業々しく持出すは其行末もいとゝ案じやられ候又浦島太郎がランプ頭にては少々變的是れでハ美術の美を損するの傾きあり若しも出來るとなら鬘を附け粉粧を施しさげ髪に致したらよろしからんと存候。

之を要するに日本演藝矯風會は名實少々相反したるの觀あり此分にて押し行かば餘り有益のものにも之れあらさる可しと相考候。

七月九日　　忍月生

巖本善治學兄

小說

○さすがに双紙　　美妙齋主人

第二篇　牝の影を舐る煩惱の犬。(上)

琴唄ー「かたりつゝ　酌む　さかづきに
　　老たる　かげも　かつ　見ゆる
　この　酒宴ころ　めでたけれ、
　　この酒宴こそ　めでたけれ。」

歌につれて霎刻して琴の音も斂まつて、直にその跡は彈手の婦人が「ほゝゝ」といふ笑聲

「本當に妾はすッかり忘れちまッたンですよこのたほり終尾あンぞ、まるで手が動かあいンですものを。」

如何にもおどけない聲がらです。その本人は誰で、そして此處はまた何處です。函根の葵屋の二階で、今琴を彈いた人は堀時子といふ淑女です。」

年齡は十九歳。もつとも年弱ださうです。

また顏の棚卸を爲ましやう。けれどどうしても惡くは言へません、實際わるく無いのですから。難には生際が整つて居ないのと齒列が揃つて居ないのとが殘念ゝ思はれますが、また思直せばその揃はぬ齒並の間に羊羹の手下が借家する事もあッて、それと無く羊羹を主が食べたと知らせますから結構です。まづ顏の作りは肥えた方でもありませんが、しかし色艶の美しさは…實にペーアス御石鹼が月に三箇は要りましやう。それでも猶足らず、「唇があれたから」との言前で下女に每週グリスリンを買はせたるさうで、藥屋でも此の人のため特別にグリスリン瓶をこしらへたと言ふ勢です。ですから美しい筈です。それに地の目鼻が最上なのですものを。内外相應じて…本當…冗談では有ません…傾國

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の相嬌を製造して居ます。
之と對坐して居るのは前回にあらハれた花房禮爾と栗殼銀之介です。曲が終ッてから栗殼はまづ口を開き、
「手が動かないッて‥‥ゐのくらゐ動けば澤山でさア。その上動くと人間は死んで仕舞ひますよ」。
このあひだ時子は琴の緒を緊めて居ましたが、「處女の思はせぶり」、俄に袖で口を掩ひ、
「あら、あンな事を仰るから‥‥をかしくッて糸がしまりませんわ」。
「志まらなければ打棄てゝお置きなさい、風邪を引く時候でも有りませんから」。花房が口を出しました。
「ほゝゝ‥‥あたしやもう否」。
「そら、阿時さんが御立腹だ。花房さん、怒らせて、酷いぢやありませんか」。
「左樣、阿時さん、怒ッたの、今に、ね、阿父さんが御湯の歸りがけに御土産を買ッて御出でなさいましやうよ」。
「人‥‥」、言ッたばかり時子は花房を睨付けました、尤も笑の籠て居る目で。そして直にその目で栗殼を尻目に見ましたが、更にふたゝび花房の方を見直して、「くす〳〵」と笑倒れました。
「阿時さん」、栗殼は手持無沙汰の躰で時子を呼蒐けました。
「はい。たゞし、「くす〳〵」の痕がまだ退去し切ぬ顔付で。
「阿父さんは何方？
「御父さんですか。御父さんは直その次の坐敷に知己が有ッて其處へ往ッて話をして居ますの」。
「左樣ですか」
話の後は絶えました。時子は琴をいぢりながら、
「栗殼さん、貴君御連も無く、一人で此處へ入らッしやッたの？」
「え、えゝ」。
「よく妾たちが此宿屋に居る事が御分りになりましたね」。
「はア」。
「ほゝゝ、はアだッて‥‥阿父さんは花房さんへは此宿屋だといふことを御知らせなさいましたらうが、貴君へは多分」、言ッて花房と眼と眼とを見合はせました。
「いや、御知らせなさいました」、調子がおのづと高くなります。わたくしにも」。
「おや、左樣‥‥何時‥‥」。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すべて時子が問ふ言葉は裏に嘲笑の針を含んでばかり居て、それがまた悟れぬほどでも有りませんのに、それでも猶…腹に一物の有るのです…鋭之助は怒る躰にも見せません。

「隨分貴女も探索が御好ですね。　何時だッてこンな事は好いぢやありませんか。」

「けれど、貴君…ほゝゝ…え、本當仰いよ。」

問詰められて鋭之助は、禮爾への手前、返答に差支へて居る、その躰の氣の毒さに禮爾は急に座を立ッて稍、外の方へ出ましたが、隱した氣でも肚の中の可笑しさは隱くす事が出來なかッたのでしやう、起ッて行く禮爾の顔を鋭之助が何心なく見ると、片頬に微笑があらはれて居ますから鋭之助の胸の中ちは餘ほど沸えて居ます。

○小說神髓

蘇格氏著　ケチルオルス　（第二十二回）

ホラの音を聞いてエメは復たび嗟歎し扨ては今朝は獵りの御催うしありと見へたり昨夜は定めし侯の忍び來たまふとおらんと思ひたるに遂に來まさゞりしは寸刻

礼爾の顔を鋭之助が何心なく見ると片頬に微笑が現れて居ますから。

の暇まもあき迄に御忙れしきとにや抑も女王陛下がレスター侯の御客とあらば即ち侯が夫人たる妾に取つても亦た大切の御客なり妾が若し其席に侍べらば侯を助けて切めて其の御苦勞を省きたらんにあど自ら怨むろいぢらしき、日は追々に高く昇れり堂內既でに日光の歩み入るを見る兼ねて戸には錠を卸したれど倘ほ安からねば入口に重き台を置き身を寄せ掛けて歎息す。時に誰やらん外より戸を叩くものあり待ちに待ちたる身あればハット驚き妾が愛する所ろの人ありやと問ひ懸るに然りと答へたれば今こそ夢と斗りに驚喜して台を投げ錠を去り戸を開らひて抱き着きぬ。

ヒシと抱き着いて怨めし氣に男の顔を見上れば、此は抑も何如に眞赤に醉つたるマイクなりき、嗚呼やと再たび驚ろいて振り離せばマイクなか／＼に是を離さず樽柿の如き香ひを發して大の目を糸よりも細くし之は／＼夫人何たるとぞ左樣もひぞうレスター侯とは違ひもすまじ之を殿なりと勸辨してササ親しく語らひ玉へと寄り添ひ醉へるまぎれに無躰の振舞を爲さんとするにぞエメは一聲高く叫んで救ひを求む、門番何事やらんとあわてゝ來たり此樣を見てマイクを叱り退くるに彼れ中々に承知せず果ては兩人の攫み合ひと爲つて騷動するにぞエメは其隙を見て逃れ出で當途もなく走せ行きぬ。

と見ば花園にて築山泉水相映じて萬景甚れだ靜かなり傍れらに洞穴あり極めて薄暗く奥に入れば苔蒸したる土座あり其奥には亦た清澄せる流れの水あつて人の休むに適す、エメは此に斷入つて漸やくに腰うち掛重ね／＼の不幸に心ほとんど狂へる如し嗚呼／＼最早レスター侯を待の暇まなし切めてトレッセリアン殿の來り玉はゞ有し事情を打あけて助けを乞いんトレッセリアン殿居まさずば最早何方にだも身を托して救ひを乞んと半ば心亂れて茫然たり、偶と流るゝ水に姿を寫せば髮は亂れ顔ばせは青し吾乍ら驚き果てゝ涙にむせびつゝ手に水を掬んで髮を梳づりける。

此日陛下の御慰めの爲にとて廣大なる城內の園に兼ねて養あひ置たる鹿數百疋を放ち諸人皆な獵りの裝ほひし馬に草かひ弓に矢つがひ今や合圖を待ち構ふ。時倘ほ早ければ陛下は暫時園內を消遙し玉ハんとすレスター侯お附き申して案內し參らす近侍はわざと御遠慮申し上げて遠く離るれば陛下は彼處此處と玉歩を運ばせ玉ひ不斷よ増して一層よ龍眼うるハしく更らに御睦まし氣に打語らひ玉ひいつもの御氣高きに似ず濃やかなる御有樣に見させ玉へば人々は倘ほ更らに遠ざかつて遙

かに守護し奉る固より何如ある御談しのありしやを知らず只だ風のまに〳〵打ち聞きたるは陛下の御聲として、

其事はモゥ言つて呉れるな若し朕が英國の一人の娘にして只だ自己の幸福をのみ考へるとの出來なば知らず英國は朕が夫にして餘事を考ふるとを許さず

と而して少し思ふとあり此處ろに朕一人を遺し置き侯は彼方に行き玉へ獵は更らに半時間ほど猶豫あるべしとて陛下たゞ御一人彼の花園の洞穴近くまで進ませ玉ひ冷しき風に身を任せて何やらん切りに打案じ玉ふ。

佳傳

○米國女學校最初設立者　メレイ、ライチン女史（其四）

マウントホリヨークの女學校成れり、女史之よりして專ら女生の敎育に任じ年給わづかに二百弗を受け校費を凡べての事に於て節儉し成るべく學資を少なくして自由に敎育を施こさんとせらる最初入校生を募集したる數は八十人なりしゝ申込手一百十六人あり此后ち年々生徒を增加し女史獨力之を敎えられける。

然るに女史が敎育の主旨は智徳の兩つを兼ねたる高尙優雅の婦人を造るにあり故に其の女生を見る温たるとは母よりも優しく然も其嚴たるとは多く見ざるほどに嚴びし入校するものある毎に先づ之に敎えて云く

君すでに此校に入り玉ふ上は宜しく万事に注意して只だ正しくあり玉ふべし若し此决心あくば寧ろ此處を去つて更らに小人數の學校に行き十分に行屆きたる德育を受け玉へ

と嘗て食事の際某と云へる女生の見へざりしかば何如なせしにやと問ふに傍輩の申すは左したる樣にも伺はざりしが心地あしとて打伏し居られぬと云ふ女史則はち其食膳を携さへ三層樓の上に昇り行き彼の女生の寓する室に至つて聽けば内に誰とやらん笑ひざゞめきて物語るが如し女史ホト〳〵と戸を叩き靜かゝ入り其病を尋ね携へ來りし膳を與へて信切に給持し太たく之を慰さめて后ち復た見舞うべしとて出で行かるゝ之れ頭上に熱つき炭火を積まれたるなり女生早々に起上り蓐を方付て下に降りける。

斯て女史は信切に、熱心に、清潔に多年一日の如く敎育に從事せられたるが其五十歳の祝ひの比ろには校資七万弗も備はり總計二千人の女生は代る〳〵校を卒へて出で其中宣敎師女敎師等と爲れりしも多く凡そ年ごとにレバイバル校内に起つて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

書生ことしく宗敎に熱心なりけるが、其比ろ或る友人へ送られたる書狀の中に、

過る祝ひの日は一日祈禱沈思致し熟ら考へ候に一生の尤も忙はしき事業は畧ぼ畢はり候が今後の五十年は抑も如何に成り行き申すべきか定めし此後ちの五十年には未だ知らぬ國に行て目を開らき候ふ折の可有之其國と今の身とを接すべき楷子は御座なく候へども其門は已でに開かれ妾は早や岸頭に立つの心地いたし遠からず其所に永く休み候はんと存じ侍る云々。

果して其の壽ちは長からざりけり、今を去る四十年前即はち一千八百四十九年二月廿九日永眠す年五十三、女史將に眠らんとするに先だち女生惣躰を集めて敎へて云く、

汝等決して死を懼るゝ勿れ世上に於て只だ懼るべきは自己の義務を知らぬとと知つて之を行わぬとに在る也。

其骸を校地內のたかづらの生ひ茂る陰に葬むり女生一同朗吟して「妾等何故に去つたる人を悲む」の歌を唱ふ、墓石の銘に云く、

マウントホリヨーク女學校創立者兼て十二年間同校の校長たり凡そ三十五年女生を敎育し三千有餘人の敎師と爲り一千七百九十七年二月廿八日生れ一千八百四十九年三月五日死去したるメリーライオン女史の墓。

而して今日に至ては同女學校すでに三棟の學舍、躰操塲、觀測臺、一萬三千卷の書籍室、三十萬弗の財產あり凡そ六千人の女生敎育を受け其の四分の三即ち四千五百人は女敎師と爲り二百人は女宣敎師と爲れり、而して此校素と女史の正實ある熱心より起る。（完）

寄書

梟　稻葉　通子

小夜ふけて月も雲間をすぎむらの木より落つるふくらふの聲

狐

枯れのこる一枝すゝき月さえてあさる狐の影さむげなる

猿

月みては落つる淚をましらさへ人まねならず秋やかなしき

蝙蝠

夕月のくまと折々なりぬるは誰かはほりのすさびなるらん

雲雀

夕ひばり霧ながらの影みえていり日まじかくあがりけるかな

水邊夏月　遠山　英風

たえかねしひるのあつさもわすられて河瀨すゞしき月を見るかな

螢火透簾

ほたる火のおすのうちより見え透て夕べすゞしき隅田のかはつら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新報　(此欄内自由に轉載するを許す)

○試驗后の女生徒

最早や何處の女學校も大抵試驗濟みぬ。之れより五六十日間は大抵何處の女學校も亦たお休みならん。お休みには成るべく遊ばるべし、能く遊ばねば勉强の出來ぬもの也。お休みには塾生は成るべく其家に歸らるべし、久し振りにて父母の膝下に侍べるも嘻しく、此際に平生見慣れぬ家内の取締方を見習ふは尤も能き稽古ならん。扨て家にお歸りならば、學校に在る樣な亂暴は止め玉へ（學校に在る時にても感心せず）女生徒はコンナものかと思はるれば、第一に御自身に長き勉强を許されざるに至り、外々の家にてもあの樣ではと心配して、其娘を學校へ遣はさぬべし、大層の關係なり。」故にぐづ〳〵としてお休みゝ休まぬものは、不斷に勉强せぬ人なり、家に歸つて孝養を爲さぬ生徒は、學校で英語が上手でも何の役に立たず。

○音樂演習會

去七日上野の音樂學校にて音樂演習會あり、兼て卒業生徒鈴木米二郎、小林鋌之助、岩城寛の三氏に卒業証書を與へられぬ。音樂唱歌の段々に盛に成り行くは實に喜ばし、音樂學校及び音樂演習會の段々に進歩する亦實に賀すべし。先達ての會に鳥居忱氏作なころの闋は、彼のプレリアンナの曲譜に合せたる、新作唱歌にて、トットトツトと若駒の跑る、ヒラヒラヒラヒラチラと花の散る、作吟ともに美妙に入つて尤も面白かりき。

○演藝矯風會

之も去八日に發會あり、日曜日なれば不幸にして參會せず、當日の批評は忍月居士、美妙齋、兩友の投書あるべし、編者が陰ながらに希望するものは、

宗教的には申さず西洋人を相手にし文明の風習をお守りあらんとならば願くは日曜日の集會は止めたし矯風主義に熱心の人も參りがたし。

戀、愛、ラブ、等を惡しきものと見る勿れ之を除くが矯風なりと思ふは大間違なり純潔高尚の愛戀を示すが即ち情交社界の惡魔を追出す天使なるのみか此等を除いては演藝に何の面白味もなからん。

餘り國粹保存的に流れず矢張り歐洲旨義を入れ玉へ。

以上は幕の後ろより言ふとゆへ固より盲言ならん。

○赤十字社二十五週年紀　赤十字社中央部に於ては來る十月二十六日を以て其創立廿五週年紀の祝典を瑞典のヂユ子ーヴにて執行するに付我日本赤十字社よりも來月十五日までに從來の成蹟を取調べて中央部に廻送し且つ祝典の當日は同社に於て同じく其儀式を執行し皇后陛下の行啓をも仰ぐ見込なりと云ふ。

○音樂學校の商議委員　侯爵蜂須賀茂韶氏は東京音樂學校商議委員を囑托せられ男爵高崎正風氏及末松謙澄外山正一兩博士は同委員を命ぜられたり。

○香蘭女學校夏季閉校式　麻布區永坂町一番地の香蘭女學校にては去八日夏季閉校式を執行し法律顧問カークード氏仝令夫人清岡子爵令夫人其他內外の貴女紳士數十名の來會あり先づ校主今井壽道氏ロイド氏カークード令夫人の演說あり次いで試驗成蹟の報告優等者褒賞授與及びチヤモレー氏の祝詞等ありて式を終り來賓には茶菓を饗し教員生徒の撮影餘興に音樂唱歌等ありて中々盛大なる式にてありし又同校は九月十日頃開校し今秋渡來すべき三名程の女教師を待つて獨佛の語學も教授する由なり。

○修身職業英和女學校　麴町區飯田町五丁目の同女學校は暑中休暇を設けずして篤志の女生徒のため英學風琴裁縫等を教授するとのこと。

○京都看病婦學校卒業式　同校にては去月廿六日第一回卒業式を執行したり當日來賓は北垣京都府知事郡區長府會議員新聞記者等內外の紳士凡そ三百名にて松山高吉氏の祈禱を以て開會し勸迎辭祝詞演說等あり次に山本覺馬氏證書を卒業生よ授與し奏樂ありて式を終へたり卒業生は四名にて其姓名は左の如し。

山中小松（岡山縣士族）伊藤てつ（大阪府平民）伴すみ（東京府士族）大林とみ（兵庫縣平民）

○近江婦人慈善會　本月の同定期を明十五日午後より大津商工會議所にて開き大谷本願寺より渥美契縁氏を招して演說せしむるよし。

○婦女談話會　去月三十日岡山縣邑久郡福岡村妙興寺に於て同郡五番學區第五回の婦女談話會を開き來會者百餘人にて演說あり中々の盛會なりしと猶九月第三土曜日に大會を催す由なり。

○山形婦人會　同會は山形の有志婦人達が組織せられしものにて去五月に其第一會を開き先月中旬に第二會を開らき爾來會員も次第に增加し目下四十名程もあるよし會長は柴原知事の夫人にて幹事は小野緒方鮫島古垣の四夫人にてよほどに靜肅優美の會合なりとのこと。

外報　(同前)

○世界婦人禁酒會々頭　五月十六日英國龍動にて同會の年會を開き其席にてミス、ウイラード嬢が當撰したりと云ふ。

○ラマバイ孃　目下米國フヒラデルヒヤに在る印度有名の女學士ラマバイ孃は本月末出發する由にて其途次我橫濱へ立寄り都合によらば禁酒の演說をなさんとの心組みありと或る米國雜誌に見へたり。

●出版書目　去六月中官報を以て廣告なりし同書目の中女學に關するものを擧ぐれば左の如し。

明治唱歌	一册	著作者大和田建樹外一名 發行者宮川保全
產婆心得	一册	發行者　若林茂一郎

田村書帖 人部之部	二冊	編者 田村宗立	發行者 村上勘兵衛
時事小説室の早咲 上編	一冊	著者 高橋達三郎	發行者 原亮三郎
文明花園春告鳥 後編	一冊	著作者 服部誠一	發行者 森仙吉
文明生活家内經濟	一冊	翻譯者 町田治助	發行者 林平治郎外一名
唱歌教授法	一冊	譯者 白井規矩郎	發行者 東浦榮二郎
閨妻學	一冊	著作者 安井常二郎	發行者 安井兵助
工藝圖畫 やまとにしき 第一	一冊	著作者 鈴木萬年	發行者 田中治平衛
新撰 書學入門幾何畫法	一冊	著作者 岡村政子	發行者 岡村竹四郎
圖畫教授術	一冊	著作者 石倉八十七郎	發行者 平澤潤助
染色鑑定法	一冊	著作者 久能省三	發行者 松村九兵衛
淺瀬の波	二冊	著作者 池袋清風	發行者 河合卯之助
新日本の佳人	一冊	著作者 櫻井鎌造	發行者 木田吉太郎
挿圖胎生汎論	一冊	著作者 栗生光謙	發行者 若林茂一郎
雨村書册	二冊	著作者 大倉護吾	發行者 岸田吟香
一夫一婦論附錄	一冊	編輯者 依田孝	發行者 内藤傳右衛
鑑色法	一冊	翻譯者 山中重太郎	發行者 出雲寺文治郎
唱歌手引草	一冊	編輯兼發行者 安井講三	

小供談

○印度物語　第四　蛇と鸚鵡、

蛇鸚鵡を見てアー人に愛せらるゝものゝ羨ましさよ我もあの樣にありたしとつぶやきいひけるを鸚鵡きゝつけてそは難き事にあらず人の愛を受くるには只己が如く人に事へ其心に協ふ樣務むべしと諭しければ蛇大に悟り直に百姓の家に至り吾身は吾仲間の如く惡き者にはあらず今より御心を慰さめ御氣に協ふ樣に致すべしと首をあげてのたくりまわりければ百姓わざ笑ひ斯る優しき言葉は邪まある蛇の口よりいづべき事にあらずと只一打ようちころしけり惡き者の善き行ひは人の信せぬものなり。

○同　第五　梟の學校

老智と名づくる梟うあり學校を開きて多くの者を集め或る日弟子の力を試みんとて月の輝ぐは何の故ぞと問ひけるにナィチンゲールは薔薇の花をながめて夜を歌ひ明さんがためなりと言ひ百合は花びらを開いて光を吸ひうけんがためなりと云ひ兎は朝げになむる露を置んためなりといひ螢は吾光を羨みて妨げんがためありといひ犬は守れる家に盗人の來るを知り得んがためなりといひ狐は行き通ふ鳥小屋の道を照さんがためなりといひければ梟さしとめいへる樣やめよ〳〵空の月は只ひとつあるに皆己がためあらん事を思へり實に己が事のみ思ふものゝ多き世かな。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●初版賣切れに付き第二版出版廣告●

○○陸軍々醫監正五位勳三等緒方惟準君題字○諸名家贊辭及跋詞
○○大阪府高橋病院副院長松尾耕三君題詞○小田垣但海君編纂

版權免許

内外名醫萬法秘術 人間生涯之寶

舶來洋紙金文字入
洋裝頁製全一冊
永久不變特別實價

金一圓

送金は郵便小爲換切手代用は一割增府外は遠近に拘はらず送達費七錢

本書は通俗文平假名附にて治療術の方法は勿論製藥の分量、調合及使用の手加減等迄明細に記載致し有之候に付き何人にても一讀の上實地に應用し其成効を確認する事容易なり

右は曩に全國諸新聞を以て人員を限り豫約出版仕りし處未だ二ヶ月を經ざるに滿員賣切と相成り候就ては廣告通り本書再刊は最早致さざる義なれとも四方愛顧の諸君よりワザ〳〵御申込みに相成り舊來の情誼今更謝絕致し難く且つは本書の發賣非常に夥しく候故射利の奸商等本書まがひの名を附し巧みに虛飾の廣告を以て世人を欺く者有之由に付き右奸商の害を防ぎ同胞諸君の利を計らん爲に曩に廣告致し候目錄の中人生必要と認むる秘傳**數十法**を增加し完全整備の者となし且つ僞版飜刻を防き世間普通の雜書に異なるを證明する爲め版權の保護を其筋に出願致せし處過般既に**內務省**より**第三九一二號**の版權登錄證を御下附相成りたり依て今般出版致候間他の類似書と同一視なく陸續御注文相成度候書中の目錄は左に記す

(目錄概略)●**總體之部** 身體の色を白くし艶を出す法、四方●あばたを直す法、二方●なまずを治す法、二方●わざを直す法、二方●汗の出つるを止むる法●疥癬の治法、三方●がんがさを直す法、二方●たむしを直す法●毛髮を生ず法、四方●毛髮を拔き取る藥の製法●いぼを去る法、三方●ほくろを去る法●**上之部** 縮み髮を直す法、三方●髮を縮ます妙法、二方●白髮の生ずるを防ぐ法●白髮を拔き黑毛を生ず法●白髮を染める法●髮を黑くし光澤を出す法、二方●髮のふけを去る法●頭痛卽治法●小兒頭痛卽治法●眼病卽治法●近視眼を治療する法●とりめを直す法●終身眼病を患へぬ簡便なる豫防法●淚の多く出るを治す法●耳の遠き者へ良く聞へしむる器械の製法●耳の霜やけを治す法●耳の鳴るを止める法●耳だれの膿出るを治す法●鼻の痛みを治す法●鼻の赤きを治する簡便法●鼻血を止める法、二方●口中の臭氣を除く法●口中の臭氣を除き齒牙を白くする法●齒の痛みを治する法、六方●虫くひ齒を直す法、二方●口中の熱を去る法●發聲を高くし且つ爽かにする法●かれ聲を直す法●談話する時其聲を淸爽ならしむる法●咽頭の腫れを治する法●顏に黑く斑あるを癒す法●顏のにきびを去る法、二方●そばかすを去る法●咽喉の痛みを治する法●**中之部** 腋臭を治する法、四方●手足のしびれを治する法●誤て毒物を飮下したる時の卽救法●過食したる時の救助法●胃弱の治法●風邪を卽治する簡便法●さなだむしを治するの妙法●胸の痛を治す法、二方●咽喉に食物の詰りたるを除く法●寒氣に手足のしびれしを直す法●手足の霜やけを直す法、二方●**下之部** 痳病を卽治する、四方●せうかちを卽治する法、二方●陰門のたゞれを治す法●月經の不順を治す法、三方●痔疾を卽治す

る法、三方●便秘を治する法●寢尿を卽治する法●子宮病を治する法●睪丸炎を卽治する法●脚氣病を卽治する法●陰虱を除去する妙法、二方●疳瘡を治する法●ひゞわかぎれを治する法

●雜門之部

傳染病を豫防する法●凍死人救助法●溺死人救助法●群衆に壓し倒されし或ハ高所ゟ落ちたるを救助する法●首縊人を救助する法●烟に咽せ死せんとする人を救助する法●金瘡を受たる人を救助する法●火傷したる人を救ふ法●泥醉人を救ふ法●大酒して醉ハざる法●酒の醉を醒す法、二方●船に醉ふを防ぐ法、二方●遠足する時の心得●夏日旅行する時の心得●寒中河を渡りて凍へぬ法●寢ずに居ても氣が衰へぬ法●蚤を避くる法●虱を避くる法●胎内の子の男女を知る法●妊婦の精力を増す飲料の製法●乳母の選定法、六譯●分娩時期を知る法●諸の毒虫に噛まれ或ハ刺れたる時の卽治法、三方●腫物のうまざるを熟す法●菌類に毒の有無を知る法等以上

猶本書は全國に普及を計る義なれは何人、何日の期限を定めず三版四版と引き續き出版仕候間實價送達費御送金に相成候はゞ何時にても御求めに應じ着金次第御送本可致候●尤も八月二十日迄に御注文の諸君へは特別を以て送達費弊店にて支辨の上御送本可仕候

全國一手賣渡所

大阪東區谷町一丁目
百七十五番邸書林

大和屋孫一郎

女學雜誌代金滯候御方

にして毎々御催促申上候とも其御住所すら分明ならざる向も候まゝ如此き御方に限り以後雜誌上に於て御催促申上候に付不惡御承知被下度候但し本社は專ら情義を重んじ候心得に有之決して輕々しく右樣の取計らひ不仕存候得共何分三四ヶ月以上も滯り居り候上毎々の御催促に一報をも寄られざる諸君に對しては實以て不得止の處置と御許容あり度預め申上置候也

女學雜誌社會計掛

東洋畫手本

蘭竹
菊梅 二帖

●新刊美本　定價金六拾錢

此帖は即ち學畫の楷梯にして四君子より始め花卉鳥獸蟲魚人物山水に至るまでを逐次に模寫し疎なるも浮薄に流れず密なるも刻滯に陷らず加之折枝は陰陽向背を詳らかにし又三方を明かにし此法によつて花を挿めば自然法に適ひ趣をなす山水は吾國有名の眞景を寫し獨り用筆用墨の法のみならず目未だ見ず足未た踐まさる奇勝名景筆下に集輯す人物は故實に徵し或は古圖に基き畫を學ふと共に智識を廣くし吾國他の美術上にても亦鴻益あらんとを要す項間四君子の部翼はくは就いて御購求あらんことを

發賣所

東京々橋區日吉町八番地

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣告

毎月一回刊行第二金曜日發兌全國中總テ郵便税無料

友響 說教演說集

去る十三日發兌せし第壹號には耶穌新教教師伊勢井深稻垣本多田井小崎諸氏の說教を輯錄し且米國說教家ムーデー氏の說教をも加へ卷端には大儀見井深小崎服部諸氏の祝詞等も載せたり尙次號に內外諸教師の說教演說を精選し登載汎く同胞の閱讀に供せんを期す伏して大方諸賢の御愛讀を乞ふ〇本誌は總て前金に非されは遞送せず〇郵便爲替は芝口郵便局宛御振込を乞ふ一冊(十六行四十八字詰三十二頁以上)金六錢半年分六冊金卅三錢一年分十二冊金六十錢

東京々橋區三十間堀二丁目一番地

發行所 江藤書店

●基督教新聞

第二百五十九號
七月十一日發兌

目次●基督教新聞〇佛國共和政府の運命〇大隈伯の觀察〇明教新誌の比丘尼論〇日本婦人の洋服〇告別の辭(杉山重義)●教報〇サマリタン會〇東京英和學校〇橫濱〇上州〇新潟三州〇京都等の教報外奇談〇紐「メソデスト」大會育通信よい前號の續なる

并に婦人論等あり●論說には青年會を如何へ裏切(三汊漁郞)●雜錄老人と驢馬〇餘り高尙すぎる●雜報せん(高臥生)〇女權論者要報(一冊金三錢郵稅一錢〇每水曜日發兌)

東京新橋日吉町二十番地

發行所 警醒社

女生徒募集

今般豫科一年二年三年本科二年三年各級へ廿名ツヽ入學ヲ許ス學科ハ米國女教師二名本邦教師六名ヲ以テ和漢學英學其他普通學ヲ教授ス望ノ方ハ八月廿日迄ニ申込アル可シ規則書望ノ方ハ郵券二錢送附アレハ之ヲ呈ス

芝白金猿町五十三番地

私立 頌榮女學校

クレームシモン廣告

クレームシモンハ巴理ノ最モ名醫ノ勸メル所ニシテ美麗ナル婦人ハ皆是ヲ用ユ、此藥ハ他ニ其類ナク一夜中ニ面胞(ニキビ)、胼、寒瘡(シモヤケ)其他皮膚一切ノ出來物ヲ治ス又皮膚ヲ白クシ强クシテ且香氣ヲ添ユ

プードルシモン(粉)サポンアラクレームハ共ニ同シ香氣アリテクレームシモンノ著シキ功能ヲ全クス

一手賣捌 橫濱五拾一番 ア、キユルチー

男女混湯を嫌ふ婦人方に告く

上州伊香保溫泉場ハ海面ヲ拔ク三千尺空氣氣候土質眺望共他ニ比類ナク泉質ハ胃弱貧血症リウマチス皮膚病白帶下月經不調子宮病等ニ効アリ殊ニ婦人病ニ特効アルハ大醫諸君ノ認メテ以テ日本第一トスル所ナリ故ニ當帳場ニテハ婦人科醫師ノ指圖ニ依リ子宮浴塲ヲ設ケイルリガートルヲ備置且十數個ノ浴室ハ盡ク男女混湯ヲ禁シ女學雜誌記者足下ノ所謂蠻風ヲ去リ得タルモノニ候間貴婦人方ノ御安心御來浴アラレ度候

伊香保溫泉元 木暮武太夫帳場

逓信省認可

統計局次長世良太一君序○統計協會議員吳文聰君序

通今居士横山雅男君著

婚姻論

定價三十五錢
郵稅十四錢

此の書は通今居士横山雅男君の著にして全編を二十八章に頒ち總論。婚姻の定義。婚姻は人類の天性。婚姻の効力等より說き起し早婚。晩婚。私婚。血族婚。離婚。一夫一婦の正婚など悉く歐米の統計上より論及し議論正確文章平滑一讀我國舊來蠻風の結婚を改良すべきの必要を感するの書なり

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正增補

文法口授

全一册●一名和文獨案內

定價十八錢
郵稅四錢

此書は文章家ある鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尙亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾よ付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校敎科用の書籍に適當也とて既でに成立學舍女子部跡見女學校頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の敎科書となりたり

巖本善治編

女學叢書

木村鐙子小傳

定價十錢
郵稅六錢

右は鐙子の君の佳傳にて姉妹の必す閱讀せらるべき價値あるものなり勝安房伯島田三郞外山正一諸氏の序跋あり

發兌　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

發兌

七月。七日　十四日　廿一日　廿八日
八月。四日　十一日　十八日　廿五日
九月。一日　八日　十五日　廿二日　廿九日
十月。六日　十三日　二十日　廿七日

定價

一册。五錢　郵稅。一錢（但府內無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行　一回（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引
但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町㒵明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田㒵貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入淨集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードー○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町○石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年七月十二日印刷
明治二十一年七月十四日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豊

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.